

6 Lesson 2 My Favorite Hero (1)

好きな人物の歴史を伝えよう

英語監修・出演 阿野 幸一

きょうの目標 好きな人や物の歴史を伝えることができる

- 現在形が表す意味と場面、過去形が表す意味と場面
- 現在形と過去形の使い分け

文法・表現 現在形と過去形の対比

現在形が表す意味と場面

次の文の意味を考えてみましょう。掛け軸の見事な文字を書いた男性について、その人がどんな人かを説明する文です。

He is not an artist, but he does calligraphy a lot.

(彼は芸術家ではありませんが、たくさんの書を書いています)

前半の **is** は現在の状態を表す **be** 動詞で、その男性が芸術家ではないことを表しています。そして **but** 以下では、「～する」という意味の動作を表す動詞として **does** が使われています。主語が **he** のため、**do** ではなく **does** になっています。この男性は、習慣として書道をしていることになります。趣味として書道をしていることもあり、書道を仕事にしている書道家の可能性もありますが、ここでは「芸術家ではない」という前半の情報から、趣味として書いていることがわかります。

is は、今を中心とする過去から未来にかけての状態、そして **does** は、今を中心とする習慣的な動作を表すことから、この人は今も健在で書道が続けていることになります。

過去形が表す意味と場面

上記の文の動詞を過去形に変えた次の文を見てみましょう。

He was not an artist, but he did calligraphy a lot.

(彼は芸術家ではありませんでしたが、たくさんの書を書いていた)

前半の **be** 動詞の過去形である **was** は、過去に続いていた状態を表しています。過去の状態のため、今はその状態にはないということになります。後半の動詞では **did** という **do** の過去形が使われているので、「たくさんの書を書いていた」という過去に繰り返していた習慣か、過去のあるときに「たくさんの書を書いた」という動作を表します。

この文では、過去の状態である **was** という過去形を使うことで、この男性は現在はまだ生きてはいないけれど、生きていたときには「芸術家ではなかった」という意味を伝えています。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

また、**but** 以下には、そのときに「たくさんを書いていた」というつながりがあるため、生前は趣味として書道をたしなんでいたことがわかります。

番組のドラマの中では、健がすでに他界しているひいおじいさん (**great-grandfather**) について話しているため、この文を使うことで、今はもう他界しているけれども、生前は「芸術家ではなかったけれど、たくさんを書いていた」という過去のことを伝えています。

■現在形と過去形の使い分け

次の会話のやり取りを見てみましょう。

昔に書かれた掛け軸の文字を見ながら、

A : I love this work of calligraphy. It's amazing. What do these characters mean?

(私はこの書道の作品をとっても気に入っています。見事です。これらの漢字はどういう意味ですか?)

B : Flower, bird, wind, moon.

(花、鳥、風、月です)

このやり取りはすべて現在形で行われています。この掛け軸が書かれたのは過去のことで、この会話は、今日の前にある掛け軸の文字について話しているため、現在形が使われています。

では次の会話（上記の続き）はいかがでしょう？

A : Who created this beautiful piece?

(どなたがこの美しい作品を作られたのですか?)

B : My great-grandfather.

(私のひいおじいさんです)

この会話も目の前にある掛け軸について話していますが、この作品が作られたのは過去のある時点での動作のため、過去形を使います。つまり、話の視点が、作品が作られた過去にあるため、過去形が使われています。

あの先生のこの話!



現在形はいつのこと?

現在形という言葉から、現在形は今のことを表していると考えられるかもしれません。しかし、現在形の表す意味はとても広いのです。次の例文で考えてみましょう。

I play tennis. (私はテニスをしています)

この文は、誰かから趣味を聞かれたり、日頃何かスポーツをしているかを聞かれたりしたときに答える文です。つまり、この文を言っている時点では、テニスはしていません。テニスをしている人が、テニスをしながら“**I play tennis.**”ということはまずないでしょう。この現在形を使った文は、日頃からしている動作、つまり習慣的に行っていることを伝えるときに使います。このため、多くの場合、次のように文の後ろに頻度などを表す言葉を続けます。

I play tennis every day. (私は毎日テニスをしています)

I play tennis every Sunday. (私は毎週日曜日にテニスをしています)

I play tennis once a week. (私は週に1回テニスをしています)

I play tennis after school. (私は放課後にテニスをしています)

こうした語句を使うことで、習慣を表していることが明確に伝わります。

では、次の文はいかがでしょうか?

I like playing tennis. (私はテニスをするのが好きです)

like という単語は、「好き」という状態を表す言葉です。この文を言っている人がテニスをするのが好きなのは、今のことだけではありません。昨日という過去の時点でも、明日という未来でもテニスが好きなはずで、つまり、以前からテニスが好きで、今も好きで、これから先も好きに違いありません。このように、過去から未来にわたる長い時間の状態も現在形で表すことができます。どのくらいの長さを表すかは、使われる場面によって決まります。次の例で確認してみてください。

I am hungry. (私はお腹がすいています)

➡ 空腹を感じてから次の食事をするまで

I have a cold. (私は風邪をひいています)

➡ 風邪をひいてから治るまで

I live in Tokyo. (私は東京に住んでいます)

➡ 東京に住み始めてから、他の都道府県に転居するまで (ずっと東京に住んでいれば、一生涯のことを表します!)

